

ザッツ ライト That's Right!

第18号

ザッツライトとは……それが権利だ!そのとおり!!という意味です。



私たちにできること
いっしょに未来をつくること



被災地では数多くのボランティアや、様々な団体から派遣された人が復興作業をされています。
いまだ、避難・転居生活を送っている人は120,000人(6月現在)。まだまだ、誰もが、「できることをできる
範囲で継続して」することが、必要ではないでしょうか?

自分もなにかしてみたい!

「義援金をおくりたい」

「被災地でボランティアをしたい」

詳しくは… 〒620-0035 京都府福知山市字内記10番地の18
総合福祉会館内 福知山市社会福祉協議会
TEL:0773-23-3573 FAX:0773-24-5282

8月は
人権強調
月間です

善意の声!?! ～節電のお願いメール～

受信：2011/03/13 9:02

件名：ご協力のお願い

■お願い■

関西電力で働いている友達からのお願いなのですが、本日18時以降関東の電気の備蓄が底をつくらしく、中部電力や関西電力からも送電を行うらしいです。

一人が少しの節電をするだけで、関東の方の携帯が充電できて情報を得たり、病院にいる方が医療機器を使えるようになり救われます！こんなことくらいしか関西に住む僕たちには、祈る以外の行動として出来ません！

このメールをできるだけ多くの方に送信をお願い致します！

3月11日に発生した、東日本大震災。日本国中が、重大な関心をもって被災地の状況を見守るなか、多くの人がある内容のメールを受信しました。

メールは、電力会社に勤める友人からのお願いとして、被災地への電力供給の支援のため、節電を呼びかけるものです。また、可能な限り多くの人に、このメールを送信して欲しいと書いてありました。

このメールが出回りはじめた直後、メールにある電力会社は、震災の発生直後に震災に関連して節電を呼びかけた事実はないと否定[※]し、「震災に関連してお客様にチェーンメールを送ることはございませんので、ご注意ください」と発表しました。

※関西電力(株)では、6月14日付で7月1日から9月22日までの間の節電のお願いを発表されました。



このメールは、いわゆる「チェーンメール」というものです。

メールを読んでもらえばわかるように、金銭を騙し取ろうとか、誰かを傷つけようという内容ではありません。節電自体も普段から率先してすべきことですので、悪意が感じられるような内容ではありません。無害な内容なら、真偽は不明でも特に問題はないでしょうか？

例えば、このメールを読んだ人は「被災地のために」という善意から節電に協力しようとするでしょう。また、多くの人にこのメールを転送するかもしれません。

しかし、震災直後に、このような事実無根のメールを、多くの人が一斉に大量送信することにより、通信網が圧迫され、安否確認など本当に必要な通信が出来なくなる可能性があります。

今回のチェーンメールは、「被災地のために何か出来ることはないか」という、みなさんの善意を利用しようとする行為です。

チェーンメールは、それ自体が問題なのです。

チェーンメールは、いたずらに不安感をあおり、噂話に尾ひれがつくことで、無用の混乱やパニックを引き起こす可能性があります。そうした混乱が、本当に必要な支援を遅らせる原因ともなりかねません。

東日本大震災に関連したチェーンメール

他にも数多く出回っているようです。ご注意ください

◆石油会社の事故◆

「工場勤務の方からの情報。外出に注意して、肌を露出しないようにしてください!○○石油の爆発により有害物質が…」

◆ランドセル寄付◆

「私のいところが赤十字の窓口になり、古いランドセルを回収して、被災者の子どもたちへ寄付をする話があり…」

◆海藻食品を食べ続けて◆

「知り合いのお医者さんから聞いた情報です。これからしばらく毎日、海藻食品を食べ続けてください。海苔などをとっていないと身体に放射能が大量に吸収されてしまいます!…」

◆関西でも大地震◆

「今日はお知らせです。明日か明後日に東北のプレートが関西のプレートを小さくして関西プレートが元の大きさに戻ろうとして関西でも大地震が起こるといふ予測がでています…」

- ・震災関連の情報に限らず、「このメールを受信した人は、他の人にも送信してください」というかたちで、重要なお知らせをすることはありません。
- ・「友達から聞いた」「関係者によると」など情報源が曖昧な場合は、直接電話などで確認をしたり、インターネットで一次資料にアクセスするなど、情報の信憑性を確かめましょう。
- ・チェーンメールを受取ったら、転送せずに、すみやかに削除しましょう。

大震災から見えてきた女性や子どもたちへの支援のあり方

東日本大震災の支援活動の中で、女性ならではの視点で、被災者を支えることの大切さについて報道がされています。その主な支援内容は、次のとおりです。

- 「必需品」…生理用品やメイク用品、下着の支援
- 妊産婦が安心して休める場や授乳室、新生児のお湯の確保、ミルク・離乳食の支援
- 子どもたちが騒ぐことを周囲に気兼ねすることのないような遊び場などの確保
- 家族の世話や避難所での食事当番・育児を、男性も女性もともに助け合う体制
- 仮設トイレやお風呂・着替えの部屋や洗濯などの男女別によるプライバシーの確保。特に思春期の女性のプライバシーに配慮する。

阪神淡路大震災では、このような配慮がじゅうぶんになされなかったために、女性が覗かれることを気にして隠れて着替えたり、子どもが人気のないところで遊んだりしたことによって、乳幼児・子ども・女性への性的虐待・性暴力が起こったといわれます。

今回の東日本大震災では、その反省に立ち、被災者支援団体が、性被害防止を呼びかけるチラシを避難所で配布したとのこと。

震災関連の報道を見ると、避難所の責任者はほとんどが男性です。そのために、女性が日常中心に担っていることが多い家族の世話、出産・育児などが見過ごされがちになります。

本市では、第3次福知山市男女共同参画計画「はばたきプラン2011」で、「生活や社会の仕組みを決める意思決定の場への女性の参画」に加え、「防災における男女共同参画の推進」という新たな分野をもうけました。

被災者支援の問題にとどまらず、誰もが生きやすい社会のあり方について、震災を通して考える大切な機会でもあると思います。



子どもの心がもりもり豊かになることば

「家庭」とは、子どもが最初に出会う一番小さな社会です。そこで、子どもは言葉を覚え、知恵をつけ、さまざまな体験をとおして大きくなります。してよいことや、してはいけないことなどのしつけや生活習慣が身につくのも「家庭」です。また、家族、とりわけ親の愛情、優しさやぬくもりを一身に受けて、子どもの人権意識は育っていきます。



家庭でこんな会話はありますか？

「同じクラスの〇〇ちゃんは、よく勉強できるのに、もっとがんばりなさい」

「男やったら、もっと勉強して大学に入りなさい。もっとしっかりしなさい」

「女の子は、もっと女の子らしくせんと、嫁のもらい手がなくなるで」

「あの子とは、遊ばんときな。家にも行ったらあかんで」

家庭の会話で、子どもの純真な心に“偏見や差別のたね”をまいていないでしょうか？家庭での一言一言が、子どもの心を育てもするし、ゆがめもするのです。子どもを認め、ほめることが豊かな人権意識をつくりあげます。



ビデオ紹介

「クリームパン」(東映株式会社 2010制作 36分)

失業中の公佑は、再就職もうまくいかず、自暴自棄な生活を送っている。隣に住む少年・武史が虐待されていることに気づくが、係わり合いを避け、逃げ出すようにアパートを飛び出す。

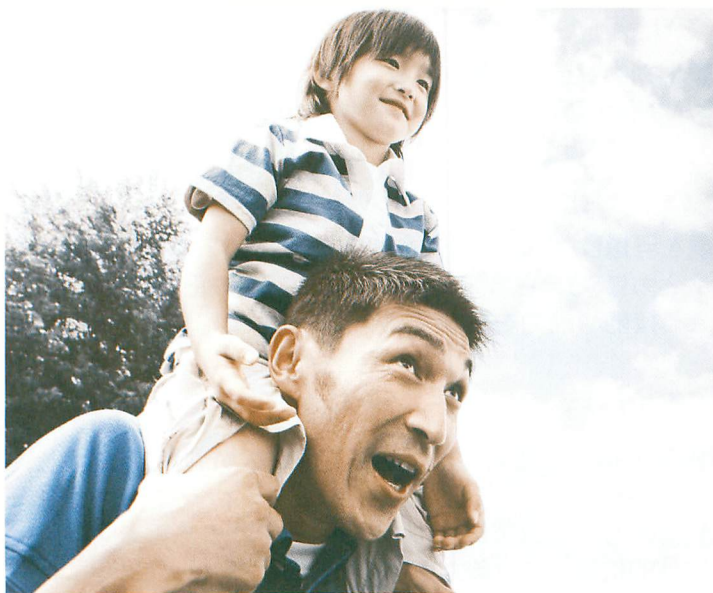
あてもなく街をさまよう公佑だったが、匂いにさそわれ、立ち寄った小さなパン屋。おせっかいな店主・珠子との出会いが公佑を変えていく。

ある日、アパートの壁の向こうから、武史の悲鳴が聞こえてきた。震える公佑だったが、助けを求める武史の声に突き動かされるように、公佑は隣の部屋のドアを叩く…。



このビデオは、市のライブラリで貸し出しをしています。詳しくは、市教育委員会生涯学習課(24-7065)まで。

男だって、子育てをしたい!



育児参加に
前向きな父親は..

約90%

現実に、積極的に
育児しているのは..

約44%

父親の希望と現実にはまだ溝があります。(*1)

積極的に子育てをしたいと思っても、実際にできている父親はまだまだ少ないようです。一方で、父親の同僚の約80%が「職場に子育てをする同僚がいたら、仕事の面で協力したい」と答えています。また、「働きながら子育てをする近隣や地域の人のために、子育ての手助けをしたい」と考える人は、約60%もいるそうです。(*2)

父親のみなさん、応援してくれる人は意外とすぐ近くにいるかもしれません。もっと子育てしてみませんか?

子育てをするあなた(父親)を応援することば

「イクメン(積極的に育児に関わる父親)は無理にやらされている人もさすので僕はあまり好きじゃない。趣味や仕事、家庭もひっくるめて楽しむ“楽パパ”になり、楽しんで子育てを」
(NPO法人ファザーリングジャパン会員:林昇平さん
はばたきフェスティバル「パパの井戸端会議」より)

「育児ぐらい崇高で素晴らしい仕事はない」
(ソニー創業者:井深大さん)

「子供は空を飛ぶ鳥である。気がむけば飛んでくるし、気にいらなければ飛んでいってしまう」
(ロシアの小説家:イワン・ツルゲーネフさん)

父親の子育てについていろんなホームページがあります、参考にしてください。

「ファザーリングジャパン」<http://www.fathering.jp/>

「パパの育児休業体験記」http://www8.cao.go.jp/wlb/change_jpn/taikenki/h20/index.html

「イクメンプロジェクト」<http://www.ikumen-project.jp/index.html>

*1:「父親の育児参加に関する世論調査」社団法人中央調査社(2009年)

*2:「勤労生活に関する調査」労働政策研究・研修機構(2008年)

川口中学校の人権教育

学校教育目標

学力の充実と体力の向上を図り、豊かな心と表現力をもった生徒の育成
・ 学力の充実(知) ・ 正しい判断力と豊かな心の育成(徳) ・ 体力の向上(体)

人権教育基本方針

個人の尊厳と人権が尊重される社会の実現を目指し、生徒の実態を的確に把握して、教育の機会均等を図り、学力の充実や進路保障に努めるとともに、さまざまな人権問題についての正しい理解や認識の基礎を培い、問題解決のために行動できる技能や能力を育成する。

具体的努力目標

- (1) 全教育活動をとおして、人間尊重、人権尊重の指導を徹底し、「差別」を許さない判断力と行動力を育てる。
- (2) 生徒の実態を的確に把握し、教材の開発や指導方法の改善に努め、人権問題学習の充実を図る。
- (3) 生徒の学力の向上を図り、多様な進路を主体的に選択できる力を身につけさせる。
- (4) 保護者・地域・校種間との連携を密にする。
- (5) 教職員の研修を深め、一致した指導体制で進める。

具体的取り組みの紹介



「いのちの授業」

地域の方、全校生徒で命の大切さについて話を聞きました。



「エコキャップ運動」

全校生徒にキャップの回収を呼びかけ、フクチン購入に役立ててもらおうと十万個近く集めました。



「話し方教室」

元アナウンサーの大学の先生にコミュニケーションの大切さについて学び、アナウンスの体験をさせていただきました。



「みんなの登校日」

園児、小学生、中学生と地域の方が集まり交流を深めました。



「ユネスコ世界寺子屋運動」

書き損じはがきを回収しユネスコ協会の方に届けました。



「東日本大震災の義援金」

生徒会で朝みんなに協力を呼びかけました。



共に幸せを生きるまちづくり人権講座
「メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン」
難病の子どもたちの夢を叶えるボランティア活動をすることでお互いがささえあえる関係のすばらしさが伝わる話をいただきました。

人権標語 の 募集

- 作品内容／人権と平和に関するもの
- 募集期限／平成23年9月16日(金)まで
- 規 格／応募様式は自由。1人3点以内。作品には住所・名前を記入してください。ただし、保護者の皆さんは、学校名・保護者名を明記してください。
- 応募・問合せ先／〒620-8501 福知山市宇内記13番地の1 福知山市教育委員会生涯学習課

明正小学校の人権教育

学校教育目標:人とつながりふるさとを愛する明正の子

やる気いっぱいの子ども やさしさいっぱいの子ども 元気いっぱいの子ども

人権教育基本方針

- ◎教育活動全体に人権教育を適切に位置付け、児童の実態を的確に把握して、教育の機会均等を図り、学力の充実・向上や進路保障に努めるなど、一人一人を大切にされた教育の推進を図る。
- ◎基本的人権や同和問題など、様々な人権問題についての正しい理解や認識の基礎と、互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する態度や実践力を培う。

学力と進路保障

- ①児童一人一人の課題に即したきめ細かな指導
- ②漢字・計算等の習熟、ミニ検定の実施
- ③読書の日常化



きめ細かな指導



ボランティアの方による読み聞かせ

豊かな人権感覚を育てる人権学習の充実

- ①毎学期の人権旬間の設定
(障害のある人への理解、人権問題の理解、性に関する教育等)
- ②道徳教育の充実
- ③PTAとの連携(人権研修会の実施)



第2学期人権学習



PTA人権講演会

人権尊重のための技能・能力の育成

- ①参加体験型学習の充実
- ②国語科を中心にした自分の思いを伝える能力の育成
- ③国際理解教育を通じた異文化の理解・コミュニケーション能力の育成



参加体験型人権学習
(保護者も参加)



修学旅行での英語を使ったインタビュー

人権尊重を基盤にした環境づくり

- ①人権尊重の学級づくり
- ②児童会行事や遊びの充実をととした人間関係の育成
- ③職員研修の充実



友達の良いところ見付け
「やさしさいっぱい広げよう」の取組



1年生かんげい集会

人権標語

- 平成22年度応募作品紹介
- 比べない 一人ひとりちがうから
 - ごめんなさい そのひとことで なかなかおり
 - 考えて 本当にいいか 考えて

徒・児童の皆さんは学校名・学年・組、

TEL24-7065 FAX24-4880

人権に関する意識調査へのご協力の御礼

平成22年8月に実施しました『福知山市人権問題に関する意識調査』では、たくさんの方にご協力いただきました。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

調査の結果がまとまりましたので、『平成22年度 福知山市人権問題に関する意識調査 調査結果について』を福知山市のホームページに掲載し、WEB上から、調査結果の閲覧やデータのダウンロードができるようにいたしました。ぜひ、さまざまな機会にご活用ください。(福知山市オフィシャルホームページ→福知山市政→分野別各種計画・条例など→ひとつづくり(人権、教育、福祉)→『人権問題に関する意識調査、調査結果』)

この意識調査の結果は、これまでの教育・啓発の点検・評価、また本年度新たに策定する「福知山市人権施策推進計画」の基礎資料として活用いたします。

また、今後インターネットをご利用になれない方につきましても、意識調査の結果を基にしたテーマ別の学習資料を作成し、人権講座などで配布するとともに、さまざまな人権教育・啓発の中で、意識調査の結果を反映させていきたいと考えています。

【平成22年度福知山市人権問題に関する意識調査の概要】

- 調査対象者 :市内在住の20歳以上の男女
- 調査対象者数 :3,200人(H22.5.31時点対象人口 66,215人)
- 調査票配布数 :2,927人(対象者数に対する割合 91.4%)
- 調査票回収数 :2,043件(配布数に対する割合 69.8%)
- 調査のテーマ :人権に関する基本的な内容、保護・救済、教育・啓発、身元調査、障害のある人の人権問題、子どもの人権問題、高齢者の人権問題、感染症患者等の人権問題、同和問題、外国籍の人の人権問題、情報化社会に関する人権問題、自殺に関する人権問題

平成22年度 福知山市人権問題に関する意識調査
調査結果について

福知山市教育委員会

身元調査

しない・させない・見逃さない

身元調査とは、個人に関する情報を本人の知らないところで、近隣の人に聞き合わせをしたり、調査会社など第三者を通じて調べることを言います。このような行為は、プライバシーを侵害するだけでなく、国籍や社会的身分、家柄、職業、出身地、宗教、信条等を理由に人を避け、排除する目的で行なう差別行為です。

福知山市では、公民館、PTA、婦人会等の代表で組織する社会人権教育推進委員会が中心となって、「身元調査お断り運動」の実践に取り組んでいます。

